

No 1967-5-1 (R) (Q) ラウルピンドイ

○ Tourism Division Mr. Aman 氏を訪ねる 12:30 に

Am 8:45 ~ 9:15. 31st 9.65 25th 90.765

16th 17.825 MHz 19th 15.135

SW₂ 14. station 4

ドイツ ケルン 放送 100-91 東京中央 1-135

Po Box 100 444

KOELN

ドイツ ケルン DW (JAPA)

以上、ドイツ、ケルンの日本語放送を受信

○ フライトの予定

6月2日、田中、木本、龍谷の3名がフライトを予定している。スカルドのどこかでテントのレストハウス滞在とする

FARHANA

Minno どうだ! Sheryi

Minno

Mansoor Malik

Malik Jee Bros

Gole Bazar

Rabwah - B. Pakistan

Kangri の山中から彼女に年輪を出そう。

Mr. Mansoor % Munawar Radio

Kashimer Road.

Saddar Rawalpindi

Tel: 64571

ファルファナさん、高校生、とてかわいいう女子。きれいな110キス9に服を着て、すっか。一目ぼれ。たまにはこんなになる事があるのか。(まだまだ小生も若いね)

平井先生もMinnoさんがすっかり気に入ったらしくて、さかんに話している。ファルファナさんは、好奇心から我々のところにやってきたのだと思うけど、とてもかわいい。でもまだ高校生。Minnoさんのいところになるそう。110キスタンにいて女性の訪問を受ける事は実にめずらしい事である。それがまたこんなに愛らしい人なんだから、しあわせ.....

さっそく日本茶を作ってさしあげる。ファルファナさんも、のんで下された。少しみょうな顔をしていたかな。高校生といってももう色気も十分あり。おっは、いのぶくらみがつぼみの様に愛らしく、民族衣装の下に、あつたし、口もとがすずしく、いいねえ。

来週の日曜日にもまた来るチャンスがある。小さな妹と弟も、ありがとう程度の日本語がわかる。たっしたものだ。我々のトウルドゥラでいい。よし、これからウルドゥラの練習をやるぞ、と思いつ。

これから一週間か二週間、フライト待ちをしなければならぬわけである。その間の味気ない毎日に、彼女達と会えるかも知れないという期待をもちながら過せるなんて、うれしい事だ。

明日は、田中、木本、両氏が確実にSkardu入りする。これでいよいよ、Caravanの第一歩が切れるわけだ。それにしても am 3:00 起きとはちときついな、ではあるか..... Rawalpindi での滞在が長くと、予算も苦しくなるし、我々の健康のためにも、早くSkarduへ入るべきと思う。

No. 1976-6-2 (水) (24) ラフィルヒンデ

毎日空振りばかり続いたが、ようやく L.O. が決定した。
AM10:00 Tourism Division から Tel. があり、Capt. Assad
が我々の L.O. と決定した。

さっそく Survey of Pakistan へよって、地図借用の下調べをすませ、
ホテルへ帰って、打合せを行なう。けこうごまかい事までつこんで
くる様だが、まだガイダンスをよく読んでいない様であり、明日
からの活動が見ものである。

第一印象としては、かなり大人で、ムンニ君よりもやりやすいものと思
うが、軍人独特のかたさがあり、全てガイダンス通りやろう
とする所がある様だ。注意

Name of L.O. Captain Asad Ullah Jan Mir
Pss 15000 aged - 28

田中副隊長、木本、緒前の3名がどうにかスカルド行きの手配を入手
スカルドへ出発した。つる岩、岡本 Doctor もフライト待ちをしたが、ゆ
きくの水ずに、すこすこ帰ってきた。この国の System はどうなっているの
か、よくわからぬが、何でも早くは早いもの勝ちといったところがあ
る。いすれにしても今日で3名、明日2名と、スカルドへ、メンバーを送
っておけば経費も安くつくであろうから助かる。

平井隊長、中村で根本大使に会いに行く。その足で Tourism
Division へ挨拶の生と会い、L.O. により Park Hotel へ帰って
打合せを行う。

Survey of Pakistan へよって、地図の下調べをすませ。
夜は L.O. により食事を採り、少し話合う。

今日は最高気温 45°C まで上がった。

1976-6-3 (木) (25) ラフィルヒンデ No. 29

AM 8:00 Capt. Asad Park Hotel へ朝食も含むにやってくる。

AM 8:30 Alfa Insurance へ再交渉に行く。H.P. の期間を3月と、
帰路キャラバンの日付を7月20日~8月20日に変更し、H.P. の
差額 270 を支払う。

AM 9:30 P.I.A. office へ平井隊長と行き、現状報告を受ける。
C-130 のフライトの可能性について打診し、ムサ、ホーランド
セニユーのつぎに我々のフライトがあり、来週には飛ぶ可
能性がある事を引き出したが、確かではない。

一組 Park Hotel へ帰り、G.H.Q. へ行った Capt. を待ち、さうして
ストラバードへ行く事とする。

AM 11:30 Survey of Pakistan へ行って、地図3枚を入手
Rs 20-

AM 12:00 Briefing at Tourism Division.

Low porter の保険にグループがついたが、L.O. はだすてん
でやってくれようだし、このまましばらくはっておくこととする。

つる岩、岡本 Doctor、2便にてスカルドへとび立つ。
ようやく Briefing も終了しあとは Skardu への空輸に全力を
あげれば良い。グループの時、ほとんど全ての事に關して準備
不全であったが、140名の Porter の雨具については、雨がふら
うどうするのかという質問に雨が降ったら休みますと答える。

さしやう ナズール 7-1 で Tombel と書く

ブリーフィングにおいて、9月5日まで permission を得ているので、
それまで滞在できる様手紙を願うための application を提出
許可を得た。これで安心してフライト待ちが可能である。

1976-6-4 (金) (26) ラワルピండి

am 8:30. 中村兄. 広石. 居谷を送るために空港へ行くが残念なから悪天のため引返してくる。ギルギティが一人. いろいろとめんどうを見るためにやってくるが. 彼もははんとしている。平井先生もしきりに. けしかけたため. 居谷は. 今日100kg程度の荷物を持って飛ぶつもりだったが. けさよく. タクシー代のおた使いでおわってしまった。

pm 7:30 フラッシュマンホテルへ. 夕食に行く. Capt. も家から帰ってきて. フラッシュマンホテルへやってくる。夕食はいつものとろろをいづもことかっているのは. 我々の口に合わないためとも思う。

ハキスタ製のビールもおむ。他に客はなし。靴のスキキを注文したが. あまりうまくいかなかった。

タクシーについては. 平井先生も毎日いろいろ通して. 何か車を打って交渉しないと気がすまないらしい。座して待つことのできない人で. おたどわかたててもやておかないと気がすまないらしい。

1976-6-5 (土) (27) Rawalpindi

am 7:30 起床. 例によってホフドエッグとトーストの朝食をとり. 居谷. 広石がスカルドへとび立つのを送る。中村兄も. 見送りに行く。9:00には Capt. Asad が Hotelへやってくるはずである。今日の仕事は. 保険の件の解決と Radio Pakistan. 及び P.I.A. の push と Capt. の身の廻り品の調達である。

保険については. Mr. Awan から. 全員 (140 porters) にかかるべきとの指示があったので. Alfa Insurance へ再度行く。そして. 今日. 1st manager の Mr. Raja 氏に会い Discount の交渉を行う。その結果. 90名. 分をふやすのではなく. 60名分を一月とし. 行きと帰りをそれぞれ半月ずつかけるやり方にて. 交渉をまとめた。これにも保険料も高くなるものである。月曜日に. 再度. Document を返して新しいものを作り直してもらう事とした。

今日はきっと居谷広石は Skardu へ行ったであろうと考えていたが. 一月近く住んでいた Room No. 9 を引きあげて. 整理し No. 10 に移り終った頃. 2人が帰ってくる。

今日の予定カード

- 1). 保険の件解決の事. Capt. Asad. Tourism Division と交渉
- 2). Radio Pakistan.
- 3). P.I.A. C-130 のフライトの check.
- 4). L.O. のズボンを帽子の手配.

1976-6-6 (日) 夕キヲ見物

フライト待ちに入って、今日でちょうど一週間がたっていました。毎日何もしていない様で、けっこうごちゃごちゃとした事が多く、自分の時間があまり取れない様な気がする。

昼からひまわりは夕キヲ見物に行く事になった。Xバーはフライトキャンセルの居谷、広石に残留の平井隊長、中村君を加えて5名、サザールのR.I.Aオクスにフライトの再checkに行き、チェックを済ませてから、バス(10マイル行)にて夕キヲへ。

夕キヲにてターナーをテーマとし、SIRKAPの遺跡と、Museumを見物という事でR200にて話しがまじまる。エルクアの遺跡は、今から2500年前のもの。仏象類は全て、ミュージアムにあり、ここは土台と街並だけがある。今さかしく復元作業が進められている。スライドと、白黒にて写真をとり、ホリスの説明を聞く。

ミュージアムでは、仏象がたぶんあたら、それ以外の装飾品類が多くあり、びっけりする。

夕キヲは、マリーヤマゲサードあたりの、2000m級の山脈が10マイル平原に消えるあたりの谷合いにあり、今から2500年前に今の110マイルニ作りえたい様なすばらしい品物を作った文明文化があった事は、実におどろきでは無い。

Museumの横にあるP.T.D.C.にて、110マイルと、ヒンカ、ヒンカを車と腹に入れ、平井先生を待つ。ターナーが「ぶっぶっ」言っている。

1976-6-7 (月) 夕キヲ見物

am 8:00 学院の~~連絡~~^(ヒンカ)さんと、Tourism Divisionのマツノ氏を訪ねる。今日の目的は、日本隊の代表者が集って、フライトの70%をすする事にある。しかし、8:05にTourism D.についても武井の宮城氏は入っておらず、しかたなく、例によって、待つ事とする。10:00ごろ彼がやってきたので、Deputy SecretaryのMeerza氏に会い、何とかしてくめる様お願いする。

彼の話しでは、今日、すなわち6月には、平均して、週2便のCBOフライトを、RAFに依頼しているという事である。110マイル軍の110マイル隊が、待っている我々をい目にスカルドへ入って、いっただ事について、もグルムをつけておく。

そのうち、Awan氏からTelがあり、彼がMrs. Davis Hotelにいらしている事を知り、急いでヒンカへ帰る事とする。ヒンカ、ヒンカホテルに入ってみると、いろいろいり、日本人部落! 99%の連中が、日本語では、は、きり不平を言うのに英語では言わないという変な態度を取るのに、あきれてしまった。何はともあれ、Awan氏との話し合いで、現在、アワーニングが終了して待っている隊の5隊については、一週間以内にはスカルドへ送り込む事を約束した。

マツノとの交渉で使った単語、discourage refuse, administration unauthorized guarantee trust wait etcであった。

夕キヲワタ

平井先生が昨日、夕キヲ見物をした時にゴタゴタしたフラグ2名もってきて、仏象や、ヒンカ、ヒンカのゴインをもってきて、さきくNO.9ルームで、オーフエヨニが開かされた。居谷と平井先生は、目の色を変えていた。一個20~30ドルぐらいで、一個づつ買っていた。ゴインも、仏象も本物の様に思えるがさて?

1978-6-8 (水)のラフィルヒンディ

"Mr. フェイン再び来室" pm 9:20

マイ・マスト・セイ・ワニング! 日本の隊が多く来るからと、許可した期日に来れないから混雑を起すのであり、これは旅行省だけの問題ではない。スカルド・ギルギット・エイヤの食料と汽油の輸送もなければならぬので、花園のフライトは出せなかったのだ。近い将来、スダス・ルートがopenすれば、50と言わず100隊でも、カラコルム全地域に入山できる。今年のようにバルトロをopenしたらバルトロへどうと、7洲をもしopenしたらフンガへどうといった具合に人々はやってくるであろう。

何でもTourism Divisionへのフエックに報告してもらいたい。平井先生は何度もPakistanへ来ているのだし、意見は尊重したい。 etc.

今日もまたフェイン君の演説を聞かされたが、今日は、ウスキーの入っている事と、いいかげん頭に来ている事からかなり言いたい事を書いた。フェイン君もたじたじといったところである。

カラコルムは高くつく。これじゃネパールなら又因行けるわい。何じゃこのjeepの空チャージは、こんなやっか。国際的に見ても通用するわけがない。平井先生もまげずに言う。多くの隊に許可を与えすぎである。サービスの低下をきたしている。

確かに不合理な点が多くおぼろげに思われる。ホーラー債にしても、例えばRs 35/dayは、一月にすると約Rs 1000となりPark Hotelのバシールの給料が450-をはるかに上まわり、そんなpoorな連中に金をもたすのは、政策的にも問題が

生じるだろう。それマタヤ砂糖如シ etc の値がRawalpindiの数倍から10倍もする事は、一種の怒りである。極一部の連中が、あまい汁を舐めて、まるまる太り、一般人がますますこまる。

スカルドがRajawより施政されていた頃の方がよほど人々の生活は安定していたのではなからうか。

Mr. フェイン君は、我々の不平に対し、弁明にやきになるばかりに、ついついPakistanの内情をもらしてしまっている様である。

広石居谷、中村兄スカルドへ 4度目の正直と言うべきか今日は、一便で広石居谷が又便で中村兄がスカルドへ出発していった。今日も半分は帰ってくるのではないかと心配していたが、そのうち、学修院隊からC-130のフライトがありそうかという情報があり、さっそくR.I.A.のAssim君(カナガハ)にTel. オフスへ行し、カリム氏に明日、PC130 2便、ありセニマ一隊と、ホーランド隊が、飛ぶ事を約束、明日am 12:00にエグクトすれば、次の便の、詳細について打合せという事になった。今日のC130フライトは、永く待っていたムサシ、ジャングリの隊がスカルドへ行った。平井先生と、この隊の當我いは、今ごろ、たがハルバトとスカルドを見て、感涙にむせんでいるのではなからうかとうめさす。彼は、実に3月28日に来ハっているのだから。

一度に3人がスカルドへ行てしまい今日は平井先生と2人をだけ、ウスキーのon the Rockで語り合う。キャラバンのやっか

登山のやり方 etc. キヤラバンでは、先着、食当、Capt.係等を作って、きちとした生活リズムで先へ進めて行こうという事となった。氷河を歩く時は、まず経験者と未経験者でトレーニングを積んでから上部ルート上の工作に当る様にしようとか、西稜ルートを進める間に前4 ice fallの偵察をやろうとか、話し合う。73号さんが今隊の中でマネジメントをうまくやらないと、先生は、ルムを付けているが、スカルドへ着いたら、そのあたり、うまくやってもらいたいものである。

ルムの整理、いつ出発にも良い様にルムの整理をすませる。ささくホックキス etc が Boxの中に入れてしまい先生にぶつぶつ言われてしまう。

母に手紙を書く、平井先生が一枚、母あてに書かれた。何か書いてあるのか知らない。

仙台の人2名がスカルドから田中副隊長の手紙をこめてくる (Pm 400) 今日まで5名で生活しているわけだが、17270か花札に2つじているらしい。何ほとよあれ健康な毎日であるようで安心。Jeep代がR5770 + 空費 - ジ分かかるようでこれはこまった事である。東北大のメンバーの一人がカハル - 午前10マイル地点でジープの事故に会いあごや肩 etc に重傷をおいスカルドの病院に入院したようである。岡本 Doctor は毎日面診に忙しいらしい。例の酒を、みかえにもらっているらしい。

OAT名の Telegram 着、キャプテンで忙しいらしい。我々も早く SKARDU 入りしたいものだ。

明日は Capt. Asad と P.I.A. Radio Pakistan. 保険について、完了したい。今夜は、11:00 までに Hotel に来予定である。

1976-6-9 (水) (日) ラブルピニディ

朝 9:00. P.I.A. office に、Capt. と行き、~~キャ~~ どの前に写真屋において Capt. 写真を撮る。P.I.A. office では、また今日のフライトが定かでないせい、我々のフライトについての information は得る事ができなかった。

Capt. の食料調達のおつき合いをして、Park Hotel に帰る。平井先生は、とうとう下痢をしてしまった。11:00、再び暑さの中のコンデスへとび出す。Insurance の期日を変更してもらうためにこれで4度目の alpha Insurance がよいである。ローボーターの期間を6月15日~6月30日とした。続いて、P.I.A. オースへ行き、ボカリ氏にどうな、たものかと交渉する。約2時間待たされて、明日のチケットを入手。続いて、Cargo office に行き、カゴのアルニジメントをたのみ、Air Port に行く。エアポートで得た情報により、Park Hotel へ帰り、トラフのアルニジヤ他の整理を急ぎ、再び Air Port へ行った時はすでに pm 5:30 であった。約1時間ほどかかって計量したと=3 Total 6622 kg. 1657 の荷物となった。これだけの荷物のトランスポートを一人で持てるのはさすがに忙しかった。Capt. の旧着、食料まで、午ののかるのは実に困った物である。Rs. 9245- を支払って Air way Bill をもらう。Park Hotel のボイスに、いよいよ夕グシーにのつたらさすがにほっとした。

11-7 ホテルに帰った後、今度は、部屋の中にある荷物を整理する。9ヶの残置カスを作る、バニールに荷物をあすけたら、Mr. フェンがやってくる。昨日約束していた電卓をとりやってくる。その後すぐ、Mr. ~~K~~ ALFAT 氏が奥さんと子供さん達をつれてやってきた。

しばらくお話しをして別れる。彼もとても良い人であり、早く連絡をとって、ハキスタの事等くわしく知る事ができたろう。ALTA氏が帰らぬ後、Capt.がHotelにやってきましたのでイン君は、計算器の交渉ができなくなる。Hotelの外でRs450-をもって、シャアエローメイトとリコーをわたす。

Capt.と平井先生と3人で No.10 ルームの最後の夜をすごす。

6/13 夜

直に言う話	平紙よこさず	腹立ちり	(後)
ようきとに	新妻たより	月あかり	(井上)
日から一日	るみ子ちゃん	るみ子ちゃん	(Good)
平紙 帰る	カ11011の町の	ぬいすまの	(木)
タイニルイ	ヒラマコ平紙は	七二い	(井)
つるやんの	平紙よんでは	ちんさめる	(回中)
ハイホーター	使てうれし	ハルスタン	(木)
ヨエハマの	女バスバス	ヤリニケリ	(回中)
矢張り	夢は英語で	用を達し	(井上)
心ダスの	川原 広石	ちんらい	(返函)

~~母~~

1976-6-10 (木)³² Rawalpindi → Skardu

3:00 テキサスに起きる。
 4:00 イスマバードのイボに着。(975-代 Rs10-)
 6:00 Booking No.1, 2, 3
 8:10. take off
 9:10 Landing on Skardu Air Port.

Only 4 hours' sleeping was not enough for us, so very much sleepy at the air port. Captain claimed me that P.I.A. told us to come to the air port so early.

C-130 carried us to Skardu nevertheless near Nanga Parbat and Skardu it was very bad weather. I saw beautiful & great Nanga Parbat from the front window of C-130.

スカルドの午前が天気が悪くて、ネグズ川の川面からそんなに高くはない高さを進み、岩壁がすぐ横にあり、実に恐いフライトであった。スカルドのair portですわ、たにネグズ川やまわりの山々をヒースをすいながらながめると、何となく、再びやってきたカラコルムの印象にじんわりと心むくものがあり、目頭が熱くなった。

air portに平井先生を残し、P.I.A.のjeepでSkarduの町へ入る。レストランの横手にキヤフェーしている。先着のメンバーと再会。Lynさん, Doctor, etc.

夕食には、ユックルックのチキンを食べさせてもらう。うけたまわ。

1976-6-11 (金) SKARDU → KHAPLU

5:00 起床. Jeep代でもめたりして出発は9:00頃となった。
途中、中村氏の Jeep が故障して、居谷が残る事となった。
Jeep 台数 9台 (内2台は小型, 内1台は3ロード). Khapluまで4時間ほど。(Jeep代 Total Rs 7808)

Khaplu のレストランの「フォキダリ」も元気になっていた。

途中で時々雨の降る悪い天気だった。

スカルドの朝は、Hassan の朝庭ではじまる。他の隊もいて、気分悪い。特に Tourism Division の Ayyaz は意に入らないう権力をほしいままにして、遠征隊の金をむり取る事のみ力を入れている感じであった。

Jeep代の件で Capt. をも含めて交渉するが、リターンのアルファベット等、世界中どこに行ってもあろうはずがなく、特にいやな話であった。

ガンジャーアルム山峰の攻撃隊が曹難したらしく、マヤスの所にも名を記していた。詳しい内容は聞かない様にしたのだが、入山前に曹難の話と聞くとマヤスの時もある。いやなものである。

ホーランドの K-2 隊とも又、スカルドの Rest House で会う。連中は隊が特に大きいために、ホチの雇用条件一つとっても資金的にひびくわけでもネズミー氏としても必死である。連中は、Jeepの空タンジは決して交換の無いと言っていたが、はたしてどうなったものやら。Skardu の新しいのレストランは今、とりわけて、新しくホテルか何かを建てるとして利用できず、かたなく、古いレストランの前の畑にテントを張って、先登の連中はほろほろい生活をしていた。

Jeepの旅もカカルまでぐらいがちょうど良い。マヤスの橋をわたると、後はショール川をいり道を行く。茶色と灰色の世界である。途中で少し雨も降る。

1967-6-12 (土) Khaplu

6:00 起床

朝から丸一日かけて、荷物の整理と Packing

7:30 頃。緒力、広石 --- 食料の再 Packing

田中、井上、木本 --- Equipment の

ハイボーターの支給品、L.O.の支給品、中岡 Porter の支給品を取り出し、キャラバン用の品をそろえたりして、一日中、ベランダを使う。Khaplu の Rest House. 以前と全く変わらず、中庭のくすみの木も青々とした枝を広げて健在であった。ちよと小さく、Rest House のフォキダリも元気に顔を見せる。我々10名は、7ピッドルームに入り、Capt. は、別の single のベッドルームに入る。荷物は全て裏の倉庫にしまって、それらをキャラバン用に作り変える。キュレーションでは、1人25kgと定まっているが、そんなのくそくらえで、平均28kg程度に作り変えるので、それは半面仕上げ事である。荷物総数138個、重量3800kg程度である。

荷物の repacking は、キュレーションに従って25kgという事であるが、例えば、70リットルポンベ等は内容量をたけて、2コで25kgあり、ベニヤ板内箱、外箱を合すると29kg程度になっている。これは連絡の目をごまかす事とした。ハイボーターの支給品は、オムラ、スルを立合せて、連ちゃんの前でチェックさせる。ハイボーター達は Rest House の裏にキャンバスシートを張って、そこで我々の炊事もやっている。Hassan はチャハル、ヤチャイを作る。我々は朝は必ずモーターバイクを作らせる。Khaplu の物価は2年前とさほど変化はない。卵一個が1ルピーというのも全く前のままである。

夜は食堂で全員そろって夕食をとり、ウィスキーをおけ、楽しい語り合いの時を持つ。Doctor はさきく、Post Office へ行き手紙を受けとってきてくれる。手紙を俊さんが読んで、遠い日本の思い出にふけるのも夜のひとときの楽しみであった。

1967-6-13 (日) 35 Khaplu

6:30 起床

今日も再びパッキング。特に今日は、食料の整理に力を入れる。レストハウスの中はゴミが多く、毎日あちこちかまされてしかたがない。夕方、川原に出て、カルト川の写真と、Khapluの裏山の写真をマミヤカメラでとる。Kodak II, Ektakrome, Neopan F.

だに KhapluのRest Houseのじゆうたには、白い足の長いだにが大小さまざまいて、毎夜あちこち食われて、赤くはれてしまい、しづかが悪い。つる谷さんや Doctorは、夜、くすみの木の下でシラフをしてぬたりしている。

味の臭 一ふさがぶどうの - 7ぶぐらいの青白いのと、むらさきのとがあり、少しあまい味は何とも言えない良い感じである。ステンレスの皿にいっぱいもって持ってきてくれるのを食べる。うまいうまい。たの意を持って、実を口に入れおとひきぬくと、しんだけが残る。

1.77セイン現る! 新次隊のユ、77セインが Khapluのレストハウスにやってくる。今回も Expeditionに参加したいのか、卵を5,6個持ってきて、おがる様な国付で俊さんとWFを見る。しかし、彼がいかにためなユ、クであったかは言うまでもない事であり、雇うわけにはいかない。

母からの手紙、Doctorの手紙、etc.、夕食後、ウィスキーをのみながら楽しんで読む。

1967-6-14 (月) 36 Khaplu (Porterの選出)

ローター、ハイローターの選出

Doctor check.	edge	木村
ハッサン (ユ、ク)	Hassan	(Ghursay)
アサッド	Asad.	(Satpara)
アリ	Ali	Raza ()
ラマザン	Ramazan	(Askoli)
シクル	Shakoor	Ali ()
オラムラースル	Ghobam	Rasool (Skardu)

ローターの選定においても Doctor Check を行う。奥歯の親知の有無を調べたり。ローター全員の顔写真を撮ったりして、今までにないやり方をする。チケットをわたすのに、母印をおさせたりもする。

Low porterの食料5月分を支給する。ローター138名は、5つのグループに分け、それぞれグループには、メイトと言えぬわけのあつた head がつき、レギュレーションに従って食料の支給を行う。Capt. は今日はもうだめだから明日やろうと言ったが、出発がだんだん遅くなるので今日のうちに支給をせざる事にする。

Capt. 用の旧器として、110y 子とキャツ下着一式を共出しせらぬ。

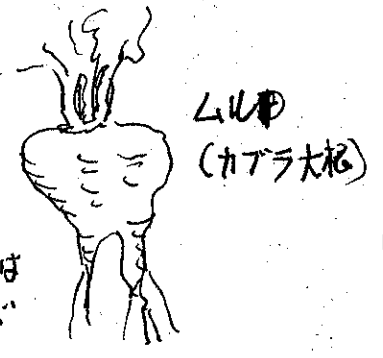
1976-6-15 (R) 37 Khaplu ◎

朝から書類の整理。ポーターの雇用書類はポーターの数だけあるから。138人の口ポーターと、6人のハイポーター分を作成するわけ全く、手間はかりかかてしかたがない。
今日は緒方の誕生日。ブランデーX.O.で祝う。
母からの手紙がとどく。
連絡の仕事である。ポーターの保険についても administration officeのライヒストの助けをかりる。
荷物を全部ザックでサリンへわたす。隣員とH.P.でやる。

6/16 子 Ali Mohammad.
Primary School, Macholoo,
子供の写真を撮る film No. 42.

バビルト リヤフェ ... アッチャ ... good.

Skardu でもスーフに
入れてくれているが Macholoo
で子供達が食べているのをよこ取り
して食べたうまかった。生のまま
バリバリ噛むわけであるが 数回
食べればあつう。あまり大きくないものが
うまい。

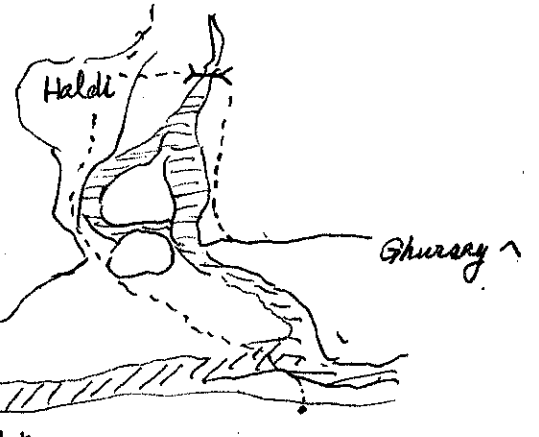


1976-6-16 (R) 38 Khaplu → Haldi ◎◎◎◎

キャラバンスタート
広石と先発で先にザックで対岸にわたす。J., フルツサことと自に
サリンへ急ぐ。Ghurray (ワルサ) はフック Hassan の家の
あるところだが、こゝへの渡渉は不可という事で Macholoo ま
で進む。11:30にはもう Macholoo の下。木下-干に着いたの
でいあえす Haldi へ向って渡渉してみる。Tagas へ帰る男
と Asad の3人で 広石を荷物番にして、わたしてみたら、約20
分でわたって切ってしまう。

11:30. もとへもどって、本隊を待つ事にした。4:20 Capt. と
Doctor がやってきたので行って良いかどうか一応聞いてか
うわたってしまう。この後、口ポーターが渡るをかなり
しほり、しかも、6名が

流されたりしたという
事であるが、それを
知ったのは Haldi
へ着いてからで
あった。



夜の交信で、平井光
生のこゝろの音が
シラフもない 田中、中村、
木本、緒方に私のところに。
と云、渡渉を甘く見ていた結果であるのと 5:00 を越えて
からの行動はやはり登山の原則をやぶるものであり、
こういう結果が出てもしかたがないのかもしらない。
10:00 おやすみ。

1976-6-17(木) Haldi 39 ◎◎◎①

am 4:00 Haldiのキャンプサイトからシュラフを畳け出す。雨がぽたぽたと青天上の顔にあたって目がさめる。am 4:15 緒方と2人で Macholoo の渡渉地点に急ぐ。傘をさして行く。夜明けはちょうど 4:30 ぐらい。4:50 にはもう昨日の渡渉地点に着きキャンプへ向ってコールをかける。平井花星が出てこれトランシーバーで交信した後、渡渉して、キャンプへ着く。

昨日の渡渉中のホーターの事故は幸い、一命をと止めた様であり、ほっとする。先を急ぎすぎた結果の事だけに残念でもあり、苦い思いもある。サルトロに3隊も入った結果、良いホーターがほとんどいない結果、ひざまでしかない渡渉地点で流されたりする結果となった。くやんでもしかたがないが、今朝渡渉しておれば、案外スムーズに行ったと思う。

とりあえず中洲の荷物のホーターだけハルティへ送る事として、あとは本廻りと言う。2日 ロスの結果となった。それでも強いホーターは、スムーズに渡渉し1時間でハルティのキャンプサイトに着く。中村さんが Haldi からホーターをつれてきたのもしげきになったものと思う。

木本が足の筋をちがえてびっこを引いている。明日一日休養になるので、その間に直る事を期待しよう。ここ数日天気が悪く、おとまで雪線がおりてくる。この分では、阪大も東北大もビラフォンド越えに回苦八苦の事と思う。

今日お昼は休養。吊テントの中で昼寝をする。食は Hassan のキニス-70 と、チャハチ 4 枚... これは緒方特製のクワの実ジャムのおかげもたけいがある様だ。

Haldi のホーター代は Rs 10/人。正規のホーターは Rs 35/人。どう着ても変な感じ。

ジョフ Hassan が ひげをそって Ghurray へ帰ってゆく。昼すぎ、子供2人をつれてやってくる。Hassan に良く休めていてかわいい。俺は PM 5:00 におわり。チャスを2回、ミルクを1回飲む。

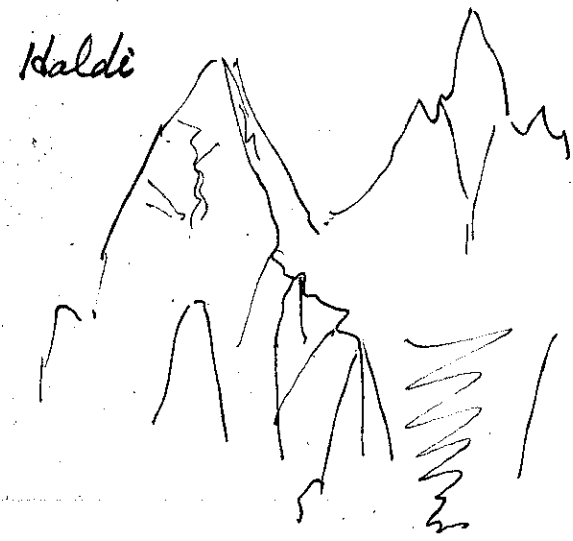
このミルク昔なつかしいヤギの干干らしい。サントルーのガラスコップに入れてもらって飲む。



Haldi Tent Site T.I.

今日は Macholoo のテント場に行き、キャラバン用のテントを持ってきたので快適な一夜を送る事ができそうである。本隊は Khane 止りになる様にする。トランシーバーの交信は全く入らない。明日も Haldi 止りになるのではないだろうか。そうすれば、ハルティの先の段丘までおかえに行き交信を試みる事にしたい。

明日からは、Caravan の隊列をしっかりととって、Khorikon dus まで進みたいものだ。もう急ぐ事はやめよう。



Haldi の裏にすごい岩峰がある。毎日天気が悪いので、雪をつけて、すごいものだ。明日の朝、天気が良ければ写真を撮ってみよう。

1976-6-18(金) Haldi 40 ①①①①

am 7:00 起床。今朝は久しぶりに良い天気だった。
 Khane 廻りの本隊を待って2日目。今日は 10:00 から迎えに
 プライゴンの方へ行こうとしたが、Haldi のすぐ下のところで本隊
 と交信ができる。12:00 には、Haldi へ着いたので今日は、タガ
 スまで行けると考えていたが、ホ-9-をせんだするやつが2, 3人
 いて全く。ためて。今日はたまたま 8km 進んだだけである。
 Max 13km までには、確保できるのであるから 5km の損である。
 Saling から Macholoo が 8km. Macholoo ~ Khane
 が、8km で total 5~6 km. 13km で計算すると、15km ほど
 損をした事となる。

今日は金曜日。回教の休みの日になるとかまたホ-9-達は
 動こうとしない。12:00 に Haldi に着いたにもかかわらず、タガ
 スまでは何とかかんとか言って動こうとしない。

カラスの卵のゆでたのを、本隊を迎えに行く時に、3ヶも食べる。

キョーロカ。アンダーである。

倉からつる谷さん。植物調査のための写真と標本とり。

木本のビュ、1も少し良くなった様だ。

10:20 Haldi テントサイト

11:00 プライゴン上の平地。

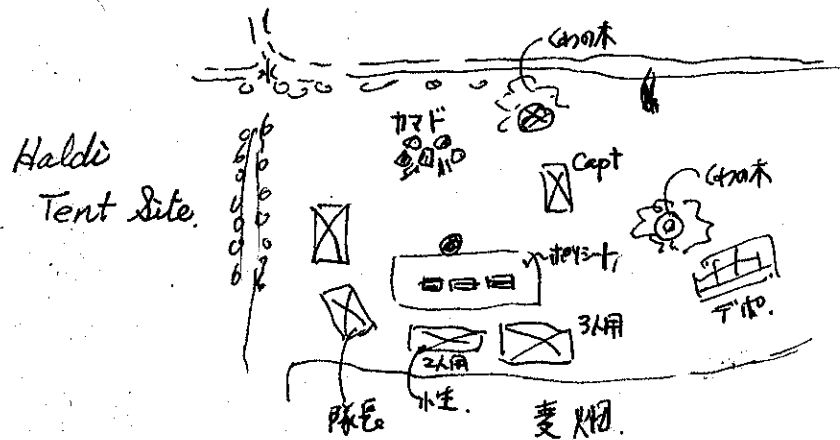
12:00 Haldi 着。

11:00 のみ交信できる。今日の昼食は、チャハティにバターと、
 くめの果シヤム 及びファイとゆで卵。ナンのはず。ミルク
 がうまい。

出迎えは、田中、井上、緒方、の3名。

今日はたまたま、Haldi さま。夕食後は反省会をする事となっ
 ている。本件(すなわちホ-9-の流された事故)は、今日にて落着
 願いたい。

キョ7°テン頭をとる。つるつるに仕上げてある。ラム・ラースル
 もひげをとる。小生も少しだけ手入れをする。
 小生、はだしてあるいて、左足の薬ゆびをけがする。自分で消毒
 しておく。ホ-9-はいいねえ Doctor にやってもらえて。



夜は、ホ-9-の事故の反省会。隊の構成等、色々今後の
 事を考えた反省となった。事故の責任は小生にあり、先発
 の責任であるとの結論。(平井先生)

小生は、トラコニーバーをもう一台出して、適切な判断を得
 られる様しなかつたのが原因。(井上)

夜の10:00 までやる。寒い、マ、それにしてもダメなホ-9-達で
 ある。あんなに水の少ない所もわたれないとは、何をする事。まあ
 一人も死んだりしなかつた事だけでも幸いという事か。

1976-6-19(土) Haldli → Chino ◎◎◎◎ = (4)

14日頃からおと悪天が続いている。今日のJILコンダスワラの話しによると、チンギにも雪があるという事である。今年も天気が悪いのであろうか。

午前7:00 Haldli Start. ほとん全員そろってのキャラバンである。今日はシノまでという事で、ホルター達ものんびりしたものである。広石君と午前中、先登という事でホルターの先頭をつかずにはおれず進む。

Tagasで昼食。egg スープとチャイティーにパン。バターをつけて食べるのがとてもうまい。ちょっと食べすぎの様な気がするが、まあいいでしょう。

Khaplu 出発時 Porter の数は138名であったが、今日は渡渉事件後トラブルの多い2名のホルターを解雇して、136名となった。

Tagas の Hotel の主人は、何と、Strong Ali であった。Capt. Doctor は、彼の Hotel で Chicken の食事。我々は Nasran の昼食。チャイティーにバターをたっぷりつけて食べる。ムルの塩漬けも毎日食べているが、案にうまい。

Chino の Mohamad の娘がくわの木から落ちて、年の骨を折ったが、Doctor がギプスをまいて、手当をする。Doctor も良く頑張る。Capt は、一人離れてテントを張る。

夕食の時雨が降る。良く降ります。ダニサムヒークも、11007 の裏山も、一昨年に比べて実に雪が多い様だ。まだまだ氷からとけるのだろうか。

1976-6-20 (日) Chino → Lachit (42) ◎◎◎◎

朝一番、Capt. Asad のホルター達に対する演説による porter 達も元気づき、昨日までとは全くちがう快ハース。シノのキャレフサイトは、サルト川の川原。水はサルト川のにぎり水を使用する。

朝一番、今日の予定をきめる。鶴谷さん先登する。朝一番下痢しようでホンに行ったら下痢せず。サルト川の川原に俊さん小いもさんと僕がしりを並べてホンをうら。シノからの道は、ラミットへの登りまでは平坦。ほんの2時間ほど歩くというブライコルであった。今回は残念ながらスリーターはやってこず、但し、老人のこじきは今回も健在で、1600m をまわして、記録しておいた。チャイティーの昼食。ビニールシートを広げて、チャイやチャイティーを並べて、全員で食事をするのは楽しいものだ。

今日のキャラバンは、Capt. 付で何としても Lachit まで行ってもらわねばならないと、彼をせがす。彼の歩き方は毎日とてもしんどいものである。

Brackoor にと初めて、Siachen の花を見る。中村兄は、カブに Siachen をとっていた。小生は、ブライコル、ラミット間の谷の両岸にあたる岩壁のあまたの調査を試みる。直径、10m 深さ50cm ぐらいのくぼみのものが連続しており、水はくによるものか。風はくなのか良くわからぬが、1912年の7-7マンの一行もこれに気がついている。

Brackoor の先の滝を連続写真でとる。実に700~900m の落差がある様だ。

ラミットでは、Capt. がほんの少し登るのをいって、変なところでキャンプした。マシムヒークのうまい事。

1976-6-21(A) Lachit → Kurma Ding ①①①① (43)

7:30 Lachit 発。カメラワラの Nabi 君と他一名を解雇。134名のキャラバンとなる。

10:30 Choga Gron 着。昼食。Doctor の高所医学のレクチャーをきく。

14:20 Kurma Ding 着。

朝、カメラワラの Nabi 君と他のポーター一名を解雇する。Nabi 君の代わりに小生自身がカメラを送る。

相も変わらず天気が悪い。ゴダス手前の橋の写真をとったり、ようやく見えてきた Kurma Ding walls の photo をとったりする。



橋をわたった所で、Doctor は村人で高熱を出している者に注射をしてやる。そのあきで少しぬれた所地に Porter 達が石の壁を作っただけで、ふくしていた

ので写真を撮る。適当にニコニコやツールがとれてうまいのではないだろうか？ そのそばにきれいな水が流れているので水筒につめる。

Choga Gron で昼食。マルのゆでたものや、羊の乳、羊の肉、羊の卵もしいす。

田のあせには、花がたくさん咲いていたので、Kodak R66 にて36枚ほど 1/100-ス、1/160-スを使って、写真を撮った。

Kurma Ding では、Kondus 谷の奥に K7 or K7 サールを見る。すごい山である。今年、日本の隊が行くそうであるが、とりつくしまもない感じである。

1976-6-22. (B) Kurma Ding ①①①① (44)

5:10 起床。ホーンに行く。始め、下痢と味だったが後は O.K.。4時頃 から強い雨が降り出していた。どうも昨夜気温が高かった様だ。

15:00 ポーター達の支払い。平均 $249 / head$ 。9IL には7日間の肉代。(これ5日分の肉代のはずなのに) 16^{mm} をまめす。134名の支払いに1時間ほどを要す。

今日は雨でポーター達を動かして距離がのびるければ一日追加しなければならぬ様になるので、休養日とする。

Porter 達は働かずして、Rs60 を手の中にするわけである。性、力、カセ、薬をのんだところ、昼すぎまでぬてしまう。天気が悪く写真も良いのとれない。昼3時から一週間の支払いにうつる。や、かいな仕事である。

問題のありどうなるか、ポーターをフェット明日は、分断してしまおう計画とする。居谷が下痢と熱でたおれる。Doctor の処置良く、おに治りそうである。

夕食は、干キンキ力が出る。緒前の食料の説明は雨のため中止。何とか一日が過ぎてしまう。中村兄は、11% が心配で毎日しびる顔をしている。

ここは水が悪く、泥水のチャイはあまりうまくない。

1976-6-23(水) Kurma Ding → 氷河末端 ◎①②③④

昨日、一応キャラバン一週間が過ぎたので、全ポーターに対し支払いをすまして、一路、チヨギ下を目指して進む。昨日は、Porterの休養日。我々も一日たっぷり休養をとる。

昨日、Porterをせんだんに賃金UPを要求したPorterは、居谷の下痢と発熱をうまく利用して、本隊と分断する事とした。

6:30にKurma Dingを出発。心配していた雨も幸い降らず。またすらKhorkondusを目指す。Porter達は快調に進み、

9:00には、ゴルコンダスの橋のところに達す。このままゴルコンダスへ入ってしまうと、先へ進めなくなるので、ゴルコンダス谷の右岸をどんどん進める事にしたが、途中の広場でストップしてしもう。ここでCapt.

がPorter達をstopさせ、納得した結果とあえず先に進む事ができる様になったが、河岸段丘を過ぎて、氷河末端の草地へやってきたところでポーター達は荷物をおろしてしもう。

Khaplu 7人で2名特に厄の悪いのがいて、休む事と日数をのばす事はあきらめて、我々を困らせるのだが、Capt.もさほどかにはなってくれない。しかたなく54名のポーターを運出し、シエルピガン谷、右岸の ablation valley まで荷物を送る。

3時頃、雨は降ってくる。おぼろげにおぼろげ。たった6kmしか歩いていないPorter達にお50与える事になってしもう。中村さんのさげんの悪い事の上なし。

<本日行動結果>

1. Kurma Ding さま。鶴谷、岡本、居谷、H.P. Ali Capt.
2. Tungue さま。井上、平井、中村、H.P. 村、ラマザン、
シエルピリ。
3. シエルピガン谷さま。田中、木本、緒、広石、マサト、ルカ

1976-6-24(木) Tungue → Chongji 下 ◎①②③④ (46)

6:00 起床。朝食 Strong Ali の作ったポラツとチヤと目玉焼きを食べた後、ゴルコンダスからさっそくPorter達も集合してきたので、荷物を割当てる。

前日まで雇用していたPorter 56名に Khorkondus wana を15名加えて、全荷を氷河末端のタンクからチヨギ下まで送る。これはフルチャジでRs60。そこに54名が前日にアブレシバレーまで荷を送っていたので、ここを取りに行かせるRs30-岡本Doctor、鶴谷、居谷、Shakool Ali は7名のポーターを連れて、Kurma Ding からチヨギ下まで、一気に入山してくる。居谷の下痢と発熱も一へんに直っている。

今日はややこしい連中は全部首にしたので、キャラバンもスムーズに進む。Sherpi Gang Glacier の右岸の ablation valley を快調に進んでゆく。

チヨギ下には、10:30頃についてしもう。それからポーターの選別にかかる。靴のない連中とか、態度の悪いのは全カット。約50名のポーターが残る事になった。帰る連中にも支払いをすませ、残る連中にも、シエルターの世話をした事として毎日ごたごたがなくて、けこうらしい。子供も Strong Ali とあつみ、青いシのじいさんも帰ってしもう。

時々、あられまじりの雨が降って、決して良い天気ではあつが、サルトロカニが真近にせまる。さっそくマシヤフォルスを使って、一枚写真をとる。今回はマシヤフォルスをよく使うよう心がけるつもりである。

Doctorに巨CGをとってもらう。カラムが不足している様に思われるようである？

夕食後、緒君の食料計画についての説明をうける。

1976-6-25 (金) T.B.C 入り (47)

6:20 広石, Asad と出発。いよいよ、フヨギを越えて T.B.C. 入りである。広石は今日は 3776m の富士山の高度を初めて越すわけである。フヨギを越えてゆくルートは、フヨギのルンゼが正味 800m もあり、キャラバンの最難関である。但し、今回はむしろ勝手知ったるルートであり、今日はすいすいと入ってきた感じでもある。フヨギで木本 Ramazan と別れ、一路、つわいのチャラガー T.B.C. へ。テントサイトの様子は全く変化なく、レイ子の家もそのままだった。また、直径 1m ほどの岩がこのチャラガに新しい一員として参加していた。

フヨギ下と T.B.C. の交信もはきり入ってくるので安心である。pm 5:00 の交信はフヨギ下から何も入ってこなかった。

pm 6:00 の交信で、聞く事

1) スpoon 食器を忘れずに持ってくる事

2) ホンペーの入っている箱をおしえてもらう事。はきりだった。

T.B.C. の高度は今回のバロメーターでもやはり 4300m であった。

T.B.C. 4300m. フヨギ 4495m. フヨギ下 3700m

フヨギ上のチャラガ 4250m. 水の水場 4165m.

pm 6:00. 晴れ。気温 20°C, 気圧 4290m

pm 6:30. Sherpi Kangri がくっきりと夕暮の空に浮かぶ。夕飯は初の自炊。はじめての Foley しゃくカーを使って、銀めしをたく。案にうまかった。

○ 井上, 広石, Asad, T.B.C. 入り, Low porter 48名, T.B.C. 往復. Doctor Tent 61用を T.B.C. 用として残る。

○ 他 Member は、フヨギ下 3700m 滞在。

Doctor も早く上へ行きたそうであった。おんがりと T.B.C. 入りかできて、何とよるにはいい事であらうか。

1976-6-26 (土) T.B.C. 4300m (48)

6:00 ① 気温 -1.5°C 気圧 4287m 風 北 電量 1 Sherpi Kangri

9:00 ① 10:00 16.5°C 4500m

12:00 ①

15:00 ①

18:00 ○

快晴

行動予定

1) 井上, 広石, Asad, B.C. ルート偵察とルートワーク

2) 装備の整理

3) T.B.C. 入り予定, 鶴谷, 田中

4) トランスポート計画の作成 (T.B.C. 残置 Eq. 他)

(中洞ホエータ給品の整理)

5) 隊員行動計画の作成 (カード化のため)

6) 個人装備の整理

7) Mail Runner の選定, 10 Porter の選定

今日は約 60名のホエータ達が入り、フヨギを越えて T.B.C. へやってくる。10:40頃、田中副隊長、つる谷、Skakool Alda と 57名のホエータが T.B.C. へ入ってくる。

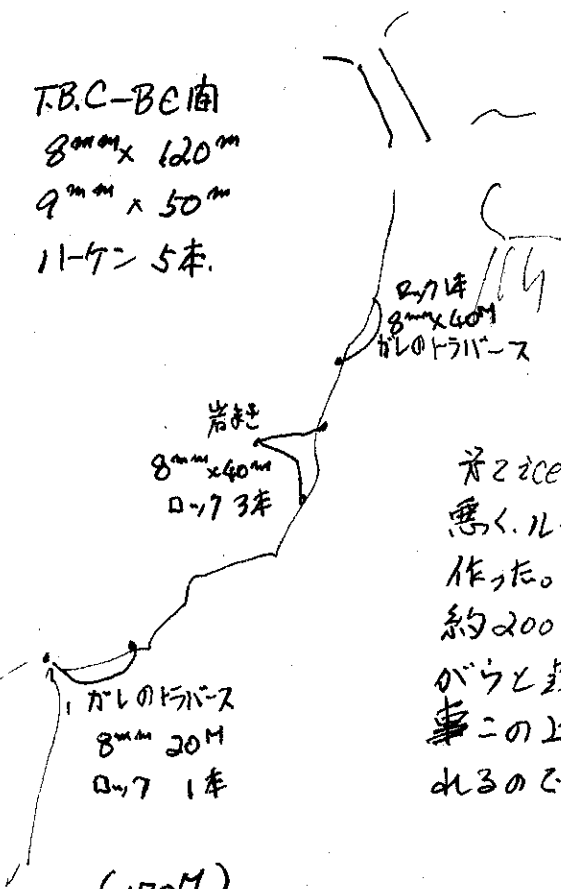
5:45 起床。おじやとみど汁の朝食。圧力釜でたいたごはんはほんとにうまい。6:00 平井先生と交信。

8:00 広石と約 100m のフックスロープをのり、B.C. へのルート偵察に出る。2nd ice fall の落口あたりがやはり落石の危険性が大きく、約 30分かけてきれいにさげおろす。あとは氷の上のエレンを歩いて、一次の下降ルンゼの下、4500m あたりに出る。ツルンをつんでおく。10:00 交信し、10:20 下降に移る。Fy に 2ヶ所追加し、11:20 T.B.C. へ帰る。

荷物もたいがまと結し。三十枚できれいなテポを作り、少し荷物を整理したり。トランジットがよってきたので機械の調整もする。テポを少しとって、夕食。つる谷、田中、井上、店石の4名での夕食はテポの外で楽しく行う。

昨日から天気は実に良くなり。今日も Shoyu が美しい。明日はいよいよ B.C までルートをつけに行ってくる。

T.B.C-B.C 間
800m x 120m
900m x 50m
11ヶ所 5本



(170M.)

900m x 50m
800m x 20m

氷の icefall

氷の icefall は右岸のモレーンの発達が悪く、ルートは単独の岩壁をいかに作った。第一次隊の下降にせいで約200m。氷の上の岩が日中はからからと踏石とがって、あぶなっかしい事の上ない。朝は良くコンクリートされるので問題は無いが。

1976-6-27 (日) T.B.C → B.C ①①①① (49)
畑中副隊長と、ハイボーター Asad, Shokoh Ali の4名で B.C までルートをつける。

6:00 出登。交信後、田中、井上、ハイボーターにて出登。我々は香枝10本ほど持ってゆすが、ハイボーターには、ケロシ20L入りを一つづつ持ちこらう。それに fix 用のロフ7°を少しつけて、Asad は2年前のルートをよくおぼえていて、どんどん西水河の合流点を進んでくれる。もう後にはまかせおいておいた。新マスフォルから、バス下のモレーンへ移る地点は、やはり氷の情態も悪く、50mほど fix Rope を張る。これは帰りにやる。登りは、かれの下が4600m で B.C 地点が4870m であり、約一時間かかる。下りはところが約15分でゆくり、下降できる。単独のハイボーターの氷越えのルートを使う必要がないので、T.B.C B.C 間は、実に楽なルートに思える。

T.B.C は4300m ありで、さきく プルックパークカーはたきを出して使用する。1升ぐらゐの米を洗って、たくわけであるが、たき上りはうまい。

2名の高ボーター達が B.C へ入ってきて、すべての隊荷がここに T.B.C 4300m に集結した。荷物のテポを作り、食事のたくもし、でけ、う忙しく、日記を付けるひまもない。夜は早くからぬてしまう。

1976-6-28 (月) (50) T.B.C ①①①①

休養 カマデマシから、コルゴシダ、チンギ下、T.B.C入り
前2ice fallのルナ工作、B.Cルート偵察と5日間ルナ
ハードに2800mから4870mまで2000mの高度をかせれた
ので今日は平井隊長から休養をいただく。しかし、荷物の
整理や記録づけ、その他でルナ忙しい。

今日から10名のローポーターを使ってB.Cへの荷上げが始
まる。昨日、B.Cまでルートをつけておいたのでローポーターの
Asad, Shahool Aliの2人にまかせておけばいいので
ゆとり休養させてもらう。今日はローポーター連もルナに慣れ
ないという事で、荷物を軽くして、B.Cへポッカさせる。

ルナ Hassan は Strong Aliの帰った後、Capt. Saab, H.P.
の食事作りに、ねる間もないほどで、Ghoram Rasoolが
H.P.の食事を作る事になった。ラッセルももう年で、H.P.のサ
ーとしては仕事ができるが、荷物運びはできない。

平井先生の古く、友として今回の参加であるか、もうこれで
最後になるのではないだろうか。

今日は Mohamed Choo も B.Cへ行き、B.Cの位置を知
り、明日からは Mail Runnerとして、3回で1500
をねとれる事になった。

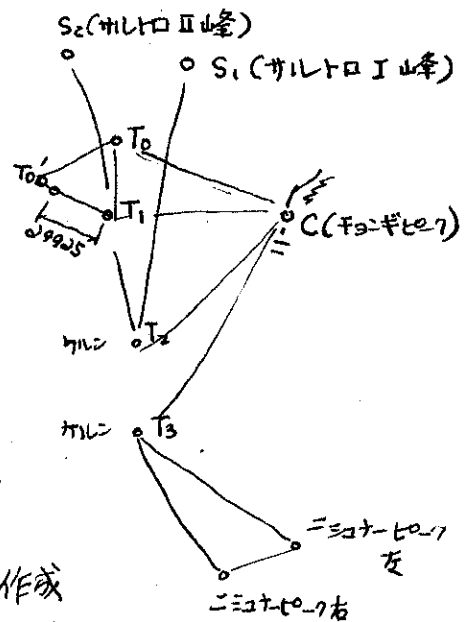
それで夜は手紙書き。母と阿部先生、山田さんの3通
でもう眠くなってしまう。ママにわたしにおしるいの。
せきが絶えていよいよやな気分。Doctorも下痢と熱で
7-7-7 言っている。

1976-6-29 (火) T.B.C ①①①① (51)

休養。午前中は、行動計画書の作成と写真とり。
午後は、測量。

測量はT.B.CではほんのTL=ing
程度であり、本格的にはやはりABC
にてやらねばならない。灰石
を助手に後半は木本を助手に
測量する。測量機械は搭入れに
やはり、時間を食うようである。
早くおこなおかないと、Sheyuiの
高さを視準するのに時間がかか
ってしかたがないだろう。Dataの
処理にも時間を食うし、なかなかた
いへんは仕事である。一次の時に、作成
した地図もたいぶしゅうせいしなければ
ならないだろう。

写真の方は、マミヤプロスと今回は十分生かして使うつもりであるが
今日は各種フィルムで8本ほどSheyui及びT.B.Cまわりを
撮った。帰国後の記録としてもとるべきである。何にしても
ワライ-とワラマンの両立は並たいものではない。
花のしおりを2枚作る。雪割草とエーテルワライをとりたいたいがま
たその機会がない。



1976-6-30 (木) T.B.C → B.C ①①①① (52)

高度順化のためB.Cへ行く平井先生、緒方にB.C入りの田中、広谷、広石の6名で下B.Cを出発。快調に進んで10時にはもうB.Cへ着いた。B.Cはまた雪が多く、テントを張る場所もうまくみつけず、石づみを作るのにたいへん苦労する。

am 6:20. エルビの頂上は良く見える中、それでも良い天気。広谷、田中、に続いて出発。広石、緒方、平井が続く。

am 7:10. 麓のIce Fall 麓口のケル。氷河の横断に移る。この氷河の横断も、ここはらくはこれで、おしまい。いよいよB.C入りである。

am 8:00. 西氷河と Sheryu Gang 氷河のゴクどりにモレンの上を行き、氷河にさしかかる所で休み、トランシーバーにて発信。

am 9:00. B.C下のモレンへ、icefallのfixを直し、ホログラフにかたづけして、カレに上る。

am 9:55. B.C着。今日の高度は4900mと書いていた。そして天気も下り坂らしい。

平井先生他、ハイボーターやローボーター達の帰ったあと、ちよとしたカレの出ている所にテントを張ろうと、ヒコケル、エヒコを使って、頑張りも、実にしんどい仕事となった。3時寺岡以上かけてやっとテントサイトができる。ダンボールをしま、一次隊の古テントを張ると、荷物のテホを整理して、やっと一息入れる。頭痛がしたし、ずきんずきん。それでもテホを作ったのとおとあきあきした。

今日のアルバイトは、テントサイト作りと、テホの整理の方が、B.C入りよりもよほどきつかった。雪のとけ方が早いのか、少し下は水流となっており、その下は水で、こまが向は向だった。

1976-7-1 (木) B.C ①①①① (53)

6:00 起き様だが雪のため、交信後、眠る。脈63。

9:00. 腹がへって、しかたなく起きる。朝食は、ぜんざい。もち5枚とゆであずき、塩昆布。短。4900m. (pm 8:00 ~ 9:00m)

11:30. B.C登。マゼンヤギに、必45. 5100m IL+作り。広石と二人、高度順化とIL+偵察をかね、A.B.Cへ向けて出発し、約2時間にて、B.Cへ到着。

俊さんの作ってくれたプリンとうまかった事。この上なし。今日は、B.Cは全部、活動中止。H.P.や隊員ごらの動いても良いとも思われるが、まあ、一日ぐらいそういたほうがあつても良いだろう。俊さん、乃さんも昼から高度順化のため5100mまで雪の中を歩いてゆく。

夕食は、ペコを良くいため、ぶた汁とする。圧力釜にて、おしこはんと、ほうれん草、LELを作る。テホはもう3個。今夜は広石君のはかりいで、07のつくだにも出てきた。夕食後、時間がたっぷりあったので、ゆくり日記をつけたり、毎に無線を書いた。明日は、視界を元きたらうA.B.CまでIL+をつけて、テント他、カレ荷上げもした。

俊さん、乃さんは、夕食後、11時、広石は読書。ドクンピー7の側壁で ice block 崩壊。pm 3:00頃。今日の積雪は、5cmぐらい。蒸発が早く、ほとんど積らないう。

前次の時は、ここCに着いたのは、7月23日頃だった。それから3日ほど悪天で動けず、A.B.Cには、7月29日頃に入った計算だ。約一月早く進んでいる。悪天時をうまく利用するのが、効率的の良いやり方というものだ。